



# 全日畜だより

第 58 号

2024 年 4 月 19 日  
<https://www.alpa.or.jp/>

## 新しい時代に向けて「令和 6 年度がスタート」 3 年余り続いたコロナ禍が収束、社会に新たなスタイルも定着

- ◎ 政府は、農業政策の大きな転換点に立っているとして、農政の憲法と呼ばれる「食料・農業・農村基本法」を今の通常国会で四半世紀ぶりに改正することを目指している。（会期末：6月23日）
- ◎ 新基本法の主題は、食をめぐる情勢が大きく変化している現状をとらえて「食料安全保障」と「農業や食料システムの環境」への対応。



第4回理事会

- ◎ 先月開催された全日畜の3月期理事会で（左から：引地監事、安井理事、長嶋理事、鶴園理事、金子理事長、隅理事、金子春雄理事長は「牛さん、豚さん、鶏さん、橋谷理事、鈴木常務、※欠席者：松永理事、牧原理事、布施監事）さんを飼って畜産物を安定供給する役割を担っている私たち畜産経営者の経営環境は、輸入穀物飼料の値上りなどで最悪な状況となっている。国にはぜひ現場の実状をしっかりと理解していただき、持続可能な畜産営について相応しい方向性を示してほしい。」と挨拶され、令和6年度事業計画と予算を決定した。

### 全日畜「第16回定時社員総会」について（お知らせ）

#### 今年も総会終了後に同会場で「総会記念セミナー」を併催します

- ◎ 定時社員総会
  - ・ 人の移動や物量がコロナ以前にもどりつつあった令和5年度の諸活動及び決算を審議いただきます。
  - ・ ロシアのウクライナ侵攻に端を発した世界情勢の激化や気候変動の進むなかで迎える令和6事業年度の事業計画などの審議をいただきます。
- ◎ 総会記念セミナー
  - ・ 講師にNPO法人「プラットホームあおもり」理事長の米田大吉氏をお迎えして複雑な地域課題にアプローチするとともに、畜産が元気になる取り組み方などについて講演いただきます。

#### 「第16回定時社員総会」及び「総会記念セミナー」の概要

1 開催日	令和6年6月17日（月）
	○ 定時社員総会 13:00～14:45
	○ 総会記念セミナー 15:00～17:00
2 会場	機械振興会館 6階 6-65・66会議室 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 TEL 03-3434-8211

#### 「総会記念セミナー」の講師紹介



講師 NPO法人 プラットフォームあおもり  
理事長 米田 大吉 氏

プロフィール 青森県出身。慶応義塾大学卒。（株）西友で、人事情報管理・評価制度設計・能力開発プログラム開発者として従事。リターン後、青森県企業の新商品開発・販路拡大・人材育成・雇用支援事業等に取組む。2011年にNPO法人プラットフォームあおもりを設立し現職。他、青森県生涯学習審議会委員、国立弘前大学教育推進機構講師などを兼任。

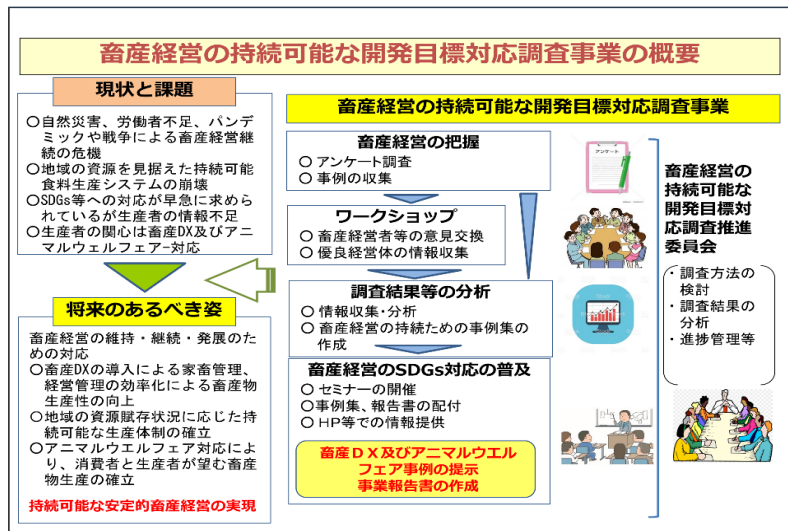
# 「多角化による畜産経営強化調査事業」が成果を収めて終了

- ◎ 全日畜が令和4年度から二年間実施したJRA畜産振興事業「多角化による畜産経営強化調査事業」が完了した。
- ◎ 令和6年1月に都内で開催した多角化シンポジウムでは畜産経営者が多角化の実践事例を紹介された。(右表参照)
- ◎ 主な事業成果の紹介
  - ・ 全国規模で実施した畜産経営者対象のアンケート調査の回収率は75%と高率で現場の実状分析に有効に寄与。
  - ・ ワークショップ5回、シンポジウム1回の開催では参加者のテーマへの関心の高さが会場アンケートで確認できた。
  - ・ 新聞報道等(13件)や全日畜ホームページでの積極的な広報活動が見られた。(近日中に「指針」「報告書」もHPに掲載予定)

全国の畜産経営者が取組事例を紹介	
 五十嵐 忠一 氏	<b>演題</b> ～地域の飼料用米を活用したブランド「やまがた農上どり」の確立に向けて～ <b>講師</b> 農業生産法人 株式会社 アイオイ 代表取締役 五十嵐 忠一 氏 <b>概要</b> 山形県最上郡雄勝川村で、プロイラー生産から、「やまがた農上どり」のブランド確立を目指し、食品加工施設を整備して、本格的に肉用の加工販売の6次化に取り組む。やきとり、からあげの直営店経営、県内の道の駅や産直施設で加工品の販売、さらには、鶏ふん糞肥による特殊肥料の生産・販売を行い、その鶏糞肥料を使った米を顔にする「循環型農業」を県内外の耕種農家と一体となって推進する多角化経営を行っている。
 須藤 陽子 氏	<b>演題</b> 6次化への挑戦 消費者と農業者の架け橋となって <b>講師</b> 株式会社 須藤牧場 監査役 須藤 陽子 氏 <b>概要</b> 千葉県船山市で昭和初期、牛を農耕用に飼育し始め、最大180頭まで規模拡大したが、現在は、ふん尿処理、飼料確保ができる110頭をフリーストールで飼養する。家族経営で、約25年前から酪農の多面的機能を活かすため、酪農教育ファームの活動に取り組みるとともに、約15年前から直接消費者との反応がわかるように、牛乳、アイスクリームなどの加工製造販売等を行うなど多角化に取り組む、酪農家の応答を高めている。
 隈 明憲 氏	<b>演題</b> 養豚と牛生産と食肉加工・販売を手掛ける多角化経営 <b>講師</b> 有限会社 鹿野ファーム 代表取締役 隈 明憲 氏 <b>概要</b> 昭和57年に資金から数人の仲間が資金を持ち寄り養豚を開始。現在養豚2,000頭を飼養している。その後、自ら販売価格を決定したいと卸売りに参入し、平成26年に売りにくい部位の加工を目的に、本社・豊登農場の近隣に八木加工・総菜工場を新設設立し、山口県内に広く八木・ソーセージなどの加工品を販売している。平成3年から肉用牛部門も開始して多角化に取り組んでいる。

# 新事業「畜産経営の持続可能な開発目標対応調査事業」が採択

- ◎ 日本農業新聞が令和5年11月4日の記事(論説)で、全日畜が調査中の「危機克服事業(略称)」の成果に触れながら今後畜産経営には益々畜産DXなどが求められると報道。新事業もこの展開。
- ◎ 令和6年度新規採択となったJRA畜産振興事業の概要
  - ・ 事業名: 「畜産経営の持続可能な開発目標対応調査事業」
  - ・ 事業期間: 令和6年度から令和7年度(事業実施主体: 全日畜)
  - ・ 目標: 畜産経営の実態を調査し畜産DXとアニマルウェルフェア対応の普及・啓発による畜産経営の安定



**論説**

## 畜産経営の危機克服

施設整備を進む畜産は、労働不足に悩む経営者も少なくない。経営者の意見交換会など、危機克服に向けた取り組みが各地で進んでいる。課題を克服するための処方箋を探る。2年、どの経営者もそれぞれに特徴がある。畜産は連年、共通の課題を抱えている。畜産DXの普及が、その一つがデータ重視の経営だ。

## データ解析力が鍵握る

既に事業の皮切りとなる地区別のワークショップが始められ、経営者が体験報告のデータを基に、飼育方法を改善し、飼料費を削減できることを突き止めた肉牛経営者も出てきた。経営者にはそれを分析して、データが求められる。その一方で、経営者も同じく悩んでいる。

5000の経営者にアンケートに引き継いだ肉牛農家ネットワークを配布し、優良事例も探ると、危機克服に向けた取り組みが各地で進んでいる。課題を克服するための処方箋を探る。2年、どの経営者もそれぞれに特徴がある。畜産は連年、共通の課題を抱えている。畜産DXの普及が、その一つがデータ重視の経営だ。

長期に及ぶ経営者アンケートを配布し、優良事例も探ると、危機克服に向けた取り組みが各地で進んでいる。課題を克服するための処方箋を探る。2年、どの経営者もそれぞれに特徴がある。畜産は連年、共通の課題を抱えている。畜産DXの普及が、その一つがデータ重視の経営だ。

(事業の概念図) (日本農業新聞「論説」から R5.11.4)

(文中での団体の略称表記について)

- 全日畜 : 一般社団法人 全日本畜産経営者協会 ●全日基 : 一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金
- 工業会 : 協同組合 日本飼料工業会 ●〇〇県基金協会 : 一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会